

# シルバー ところざわ



◆発行 社団法人 所沢市シルバー人材センター 1995 No.51

6月号



挨拶する高橋理事長

総会は伊東理事の司会並びに開会宣言に続いて高橋理事長の挨拶、北尾幹雄市議会副議長、大石県議会議員、山中埼玉県高齢者生きがい振興財団次長から祝辞、そして止むを得ない事情で遅れてご到着の斎藤所沢市長からご挨拶をいただく。更にご臨席頂いた次の來賓の方々と祝電の紹介がなされました。

来賓 埼玉県議会議員 熊野 嶽氏

” 柳下 礼子氏

所沢市長生クラブ

連合会長 山崎 文夫氏

祝電 (社)全シ協会長 関 英男氏

埼玉県労働部

職業安定課長 近藤 宏氏

以上、ご来賓祝辞、ご紹介及び祝電の披露を

経て、兼松副理事長、梶畠理事を議長に選出すると共に、山本、名倉両理事を議事録署名人、伊藤(義)理事、名古屋庶務係長を書記に任命の上、議案審議に入る。

- 1) 第1号議案 平成6年度事業報告(山川事務局次長より説明)
- 2) 第2号議案 平成6年度収支決算及び財産目録の承認について(山川事務局次長より説明)
- 3) 監査報告 斎藤武司監事監査結果報告
- 4) 第3号議案 平成7年度事業計画(案)承認について(大野専務理事説明)
- 5) 第4号議案 平成7年度収支予算(案)の承認について(大野専務理事より説明)
- 6) 第5号議案 役員(理事)の承認について(小林 晟氏の推せんについて大野専務理事説明)

平成7年度

定期総会開催!!

全議案可決

平成7年度定期総会が、初夏を偲ばせる好天に恵まれた5月26日(金)午後1時30分から、旧市庁舎4階大ホールに於いて、会員579名(委任状出席を含む)の出席及び所沢市長を始め多数ご来賓の方々のご臨席をいただき盛大に開催されました。



会場を埋めつくす会員

7) 第6号議案 役員(理事)の退任承認について(石田道男、金子光子、市川一雄各氏の退任について大野専務理事より説明)

以上、全議案総べて原案通り承認可決され、議長及び書記解任。

引き続き、下記各氏に感謝状並びに表彰状が、

高橋理事長より贈呈されました。

感謝状(理事退任) 石田 道男氏

( " ) 金子 光子氏

( " ) 市川 一雄氏

表彰状(80歳以上、平成6年度就業者)

村田 福治氏 三浦 英氏

浅井 宏氏 篠原 操氏

吉田 勝三氏 山本 英香氏

邑井くみ子氏 砂子 きく氏



和やかに懇親会

以上、感謝状・表彰状受彰者を代表して、石田道男氏の謝辞が述べられ、あと伊東理事の閉会のことばですべてを終了する。

総会終了後、402・403会議室に於いて、出席者全員による懇親会が1時間余にわたって和やかに催され、平成7年度の目標達成に向け、力強いスタートが切られました。

## 平成7年度定期総会に臨んで

### 理事長 高 橋 義 男

景気回復の掛け声がかかってかなりの時間が経過したが、残念ながらなおその明らかな兆しは見えてこない。そればかりか、一時期のアレヨアレヨと驚かされた円高は、ほの見えたと噂された景気好転の期待を一気に吹き飛ばしかねない心配をみなぎらせた。今の所、いくらか戻したようだが、依然、円高基調にとどまる「円高安定」に推移しており、輸出産業、なかんずく中小企業のそれはとても胸撫でおろすという訳にはいかぬ有様である。一方、国際経済全体の展望については、折柄の経済摩擦は決裂のままWTOへの提訴合戦となり、ちょっと近い時期の調整は望み薄という有様である。

他方、国内の政治など社会の不安定要因は、阪神大震災後始末の困難な足取りに加えて、先の統一地方選挙結果は、東京・大阪の知事に既成政治勢力が一致して推した候補者が敗れ、特に東京の場合は、前知事を中心にここ数年来、企画・推進してきた「世界都市博覧会」事業が、青島新知事の中止発言と共に大混乱となり、議会側は100対23という絶対多数の決議を以て実施を迫るなど紛糾している。

さて、ここに驚天動地の大不祥事と言っても過言ではない「オウム真理教事件」なる摩訶不思議な宗教？集団の、常軌を逸したというか、想像を絶した騒動は、いまだその真相・全体像は明らかでないが、世人の耳目を聳動せしめてやまないのである。

世界の先進国といわれ、あるいは経済大国と宣伝せられるわが国において、さらに治安状況の極めて良好といわれてきた日本において、なんとも情けない事が起こったものである。

犯罪者的素質のある教祖と称する曖昧な人物に、わが国最高学府に学んだ多数の人物がつき従い、なかでも科学者、医者、法律家等の資格者が、無辜の一般大衆を毒薬攻撃で殺戮するなど、常識では到底納得出来ないことをやってのけたのである。

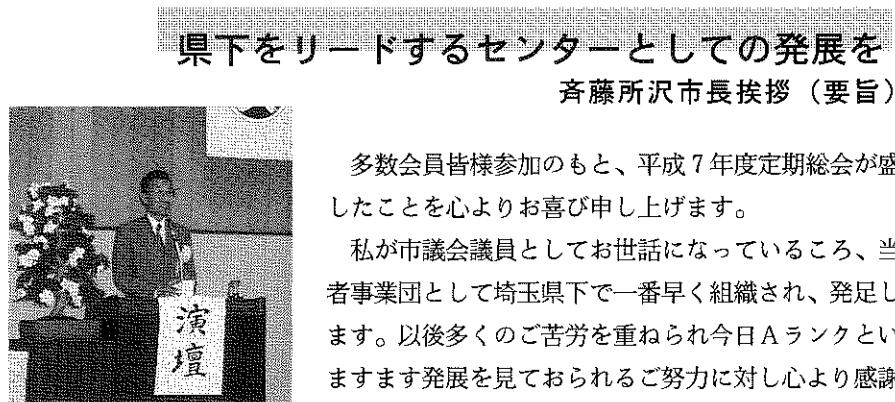
イワシの頭も信心からと古諺に言われてあり、いかに荒唐無稽な幻想をふりまいたとしても、信ずる人の自由かも知れない。しかし、信者を拘束したり、布施と称して財産を掠取同様に巻きあげたり、薬物で人の思考を誤らせたり、いわんやこれを批判する人を拉致殺害するなど天人共に許されない所

業である。

どうしてこんな場違いの化け物が、大手を振るに至ったのか。国民の税金で養い育てた学者や医者が、こんな悪業に加担し、それを又、国民の税金を使ってつかまえたりせねばならぬとは。

降魔の剣を握るべき警察庁長官がその悪魔の銃口にさらされるなど、当の御本人には誠にお気の毒ながら、われわれはただ切歎扼腕の口惜しさである。

こうした世相を前にして、わがシルバーの同人同志の皆さんも、地団駄踏んではばかりではいられません。相依り相扶けて言うべきは言い、行うべきは断固努力せねばならぬと思います。要するに若い者に任せっきりではいかんなア。隠居など、とんでもハッパンということになりませんかなア。



多数会員皆様参加のもと、平成7年度定期総会が盛大に挙行されましたことを心よりお喜び申し上げます。

私が市議会議員としてお世話になっているころ、当センターが高齢者事業団として埼玉県下で一番早く組織され、発足した記憶がございます。以後多くのご苦労を重ねられ今日Aランクという形にまで躍進、ますます発展を見ておられるご努力に対し心より感謝申し上げる次第です。

挨拶を述べる齊藤市長  
やがて、4人に1人が65歳以上という高齢化社会を迎えることとなり、その対策が重要課題となっております。

迫力ある経済社会の維持には、高齢者皆さんの就業が不可欠であり、その就業の場を確保し、豊かな経験と智恵を活かし、発揮できる素地を作つて行くのが行政の責任であると考えております。高齢者皆さんのニーズに合つた臨時的、短期的業務を長期的視野に立つてバックアップして参りたいと思います。

高齢化社会の福祉対策として、不幸にして長く病の床に伏し、又痴呆症等により介護を必要とする方の対策に万全を期することは当然ですが、本日ここにお集まりのようにお元気な方の割合のほうが余程高いわけです。

その方々がより一層生きがいを感じ健康を保持継続できる施策がより大事と考えております。

どうか当所沢市シルバー人材センターが、県下をリードするセンターとして、ますます発展することを祈念申し上げご挨拶の言葉といたします。

## 事業部会通信

### 福祉、家事援助サービス事業の具体化について

高齢化社会の進展が加速度をつけて来ておりますが、必然的に健康な高齢者が、より高齢者や病弱高齢者の支えとなるシステム化が全国的に推進されております。政府においてもこの具体的施策について財政的、制度的にシルバー人材センターによる取り組みが懇意されております。

埼玉県下においても既に浦和、狭山両市シルバー人材センターが発足しており、平成7年度においては上尾市ほか一市が発足の取組みをはじめております。

当所沢市シルバー人材センターにおいても、この程事業部会、婦人部会と事務局の間で具体案の策定について再三にわたり審議、平成8年度より発足できるよう諸般の体制を整えつつあるところです。

この事業は主として女性会員を中心としての発足・運営となりますので、調査・研究の主体には婦人部の奮発をお願いし、事業部会・事務局がこれに協力・推進するという体制が最善と考えられます。

平成7年度は、総会においてこの方針を確認し、平成8年度発足に遺漏なきよう万全を期する所存です。多数会員皆さんの一層のご理解ご協力を今からお願い申し上げて置く次第です。

## 会員安全就業推進委員会通信

### 就業「途上交通事故」の絶対防止を!!

平成6年度、当センター会員皆さんの就業に伴う傷害事故の発生件数は、別表のとおり7件でした（他に物損事故3件）。事故「0」を悲願とする目標とは程違った結果でした。

幸い重篤事故に至るものはありませんでしたが、内容別に検分してみると、就業途上の交通事故が3件と、半数近くを占めております。自転車、バイク、乗用車利用によるもの各1件で、乗用車によるもの以外はちょっとの差で重篤事故にもなりかねない内容でした。

近時、全国シルバー人材センター協会、その他関係機関から「途上交通事故」が全国的に多発の傾向にあるので、これら防止について徹底を期すようにとの通達が寄せられております。当センターの傾向も例外ではありません。

安全就業の確保は、私達センター会員にとっては特に大前提です。危険を冒してまで就業する必要はありません。反面、就業に当たっては危険を絶対に避けなければならない。どんな状況にあっても絶対無理しない、そして焦らず安全を確認する。これが危険を避ける要件でしょう。

新しい年度を迎えました。心を新たにして就業「途上交通事故」の絶対防止を期し、事故「0」の達成を目指し頑張って参りたいと思います。

#### 平成6年度 会員傷害事故発生状況表

(自.平成6年4月～至.平成7年3月)

	発生年月日	性別	年齢	就業内容	事故発生状況	備考
1	平成6.4.11	男	67	屋外清掃	駅前ゴミ箱のゴミ収集中、ゴミの中に釣針が混入。これが手の甲に刺さり、受傷した。	全治5日間 (通院)
2	6.7.29	女	64	屋内清掃	事務所内清掃中、配電盤ボックス（金属）角に前額部を打ち突け、裂傷を負う。	全治3日間 (通院)
3	6.8.1	女	71	屋内清掃	清掃作業中、濡れオムツの入った袋を移動すべく持ち上げたところ、右側肋骨に痛みが走り、診断の結果骨折していた。	全治16日間 (通院)
4	6.10.12	男	63	経路途上	発注者（横はり）宅に向かい、自家用車にて交差点で赤信号停車中、後続乗用車の追突を受け、ムチウチの傷害を受ける。	全治15日間 (通院)
5	6.10.14	女	75	経路途上	交差点を自転車横断中、左側よりバックして来た乗用車の衝突を受け、転倒受傷（顔面、その他挫傷）	全治17日間 (通院)
6	6.11.29	男	73	塗装業務	ダイエー所沢店屋上で外壁のペンキ塗装を行うべく、梯子に足を掛けたところ踏み外し転倒受傷した。（左足首捻挫）	全治4日間
7	7.1.24	男	69	経路途上	就業場所に向かいバイクで走行中、脇道より飛出した乗用車に接触され転倒、受傷する。 (前額部及び膝部挫傷)	入院12日間 通院21日間

## 婦人部主催日帰りバス旅行に参加して

中央地区 山 崎 美栄子



下久保ダム堤壠にて

二年前、シルバー人材センターでご一緒した仕事で知りあった方達で参加できたら、とのお誘いで申し込んだ婦人部主催の春の日帰りバス旅行の五月十一日朝、曇り空で出発時にはポツポツと雨が降り出し、空模様を気にしながら三十一名、センターを後にし、美しい若葉を遠く近くに眺めつつ、児玉町長泉寺に到着。埼玉県指定天然記念物の“骨波田の藤”を見学、丈の揃った藤をバックにパチリ記念撮影。珍らしい白藤の香り、姿の良い山

つつじに見とれて再びバスで一時間、目的地の下久保ダムに。周囲の山々が匂うばかりの緑に映えて、静かにたたずむ湖上をさわやかに流れる風、新緑の息吹きに触れていると、とても若やいでゆくような、はずむ想いを味わう事が出来ました。近くの旅荘で昼食、これ又山菜料理のなんと美味しい事か。ショッピリ入ったビールの酔いで、帰路のバスでは心地良い眠りで、金鑽神社・元三大師の見学は夢の中。次に、本庄市の魚のデパート、角上本庄鮮魚センターに立ち寄りました。山本部長、兼松先生のご芳志で思いがけなく手にした金子で近所の人とお土産の魚を貰う事が出来、嬉しい気持ちになって、センターめざして出発！

今回婦人部主催の日帰り小旅行に初めて参加いたしました。一日を共にし、新しいお仲間を作れました事にショッピリ満足。大野専務、名古屋係長、お二人の男性に守られ何かと心配りをいただき、日頃の仕事から離れ、のんびりとさわやかなみどりの薫につつまれて過ごさせていただけた事。又、安全運転に徹して下さった運転手さんと博識多才な添乗員さんに感謝しつつ、無事故で予定より早くセンターに帰り着く事が出来ました。本当にありがとうございました。心配していたお天気も恰度良い天候で雨に見舞われる事もなく、お天気お姉さんの旅でした。又の機会を楽しみに！

## 第二次世界大戦終結50周年秘話特集 II

### 50年前のあの想い、そして今…

富岡地区 榛 畑 允

昭和20年（以下年号省略）前後を想い起こし、私にかかわりのあった出来事を、当時の私に戻ってその断片を綴ります。

（その一）

昭和20年8月15日、ラジオで全国民に告ぐ天皇陛下の「お言葉」が放送されました。要旨「これ以上戦争を続行することは、日本全国土が廃墟になり、日本国は滅亡する。耐えがたきを耐え、忍びがたきを忍んでポツダム宣言を受諾する」の詔勅でした。連合軍に降伏し、この日をもって戦争を終結するとの天皇陛下の宣言でした。日本の将来はどうなるのか、全国民の想像もできない不安な出来事です。私は海軍に軍籍（下級士官）を置き、指宿海軍航空隊で鹿児島港から出航する船団の護衛（水上偵察機）が任務でした。同年5月5日、敵グラマン戦闘機とB29爆撃機の大編隊の空襲を受け、「アッ」と言う間に航空隊の施設、飛行機は大破全滅、戦死者約300名、住むに庁舎・兵舎はなく、戦力は「0」となりました。翌6日からの作業は、破壊された施設の片づけと、居住を兼ねた防空壕掘りが任務となり、山の斜面を活用し作業に専念しました。

私は下士官と兵100名を引率指揮し、池田湖畔に移動防空壕掘り作業。

そして、8月16日、本部の通達で作業を中止し、下山飛行隊長に報告したところ、即貴様は郷里に帰ってよし（復員）とのことで郷里下関へ帰りました。

この時の私の心の動揺……。戦争が終わったということは連合国に負け、降伏したことである。それまでの教育では降伏なんてあり得ないことです。

航空隊は廃墟となり、兵器は「0」になったが、なぜ最後の一兵となるまで戦い抜かぬのか……と意気込んだのは実感です。

俺達は戦いに敗れはしたが、もしまだ戦う時があれば、今度こそ何が何でも勝ち抜くぞ、負けるものかと悔やむ声。勝つことを信じつつ戦死した戦友に相すまない……と思ったことも当時の実感です。

多くの友（同期生）が水上特別攻撃隊に加わり戦死しています。

終戦後の苦しい生活の中で、「勝つことを信じつつ出撃した貴様が幸福か」「負けて生きのびた俺達が幸福か」悩み続けたのも当時の実感です。

終戦と同時に占領軍による軍隊の解体（武装解除）、外地一線部隊の将兵は捕虜となり抑留、極東軍事裁判（戦争犯罪人扱い）、財閥の解体、公職追放、農地の解放、思想犯の釈放（思想・発言の自由）、教育制度の改革等々、想像もできなかった改革が連合国に占領下でなされた。

昨日まで共に祖国のために戦ってきた同胞が、軍国主義だ、侵略戦争だ、天皇制廃止を叫び、民主主義だ、民主主義だとデモ行進。面喰った世の中に変った、の想いも実感でした。

（その二）

今、あらためて日本の降伏、占領下の悔やしさ、苦しさに負けてたまるものか、今にみろ、俺達は廃墟から立ち上がるぞ、そんな気概で苦労しながら新しい平和な日本が生まれ、再建されたと思います。戦争ほど惨めなことはありません。二度と戦争は起こさないよう戦争を体験した者、戦争で被害を受けた人々のみが知る戦争の惨めさを、私は私の子供、孫へと語り伝え、再び戦争など起らぬよう平和な日本、世界であるよう願い続け念じている今日この頃です。

## 会員インタビュー I

### 当センター会員1号さんはどんな方!!

或る日、当センター会員第1号さんてどんな方だろう……と「フッ」と思いつき早速に会員名簿をめくってみました。すると、第一頁の第一行目、会員No.「1」に鈴木貞次郎さんのお名前。すぐに電話で、いずれインタビューしたい旨、就業先に連絡すると、即日O.Kのご返事。大野専務と一緒にお訪ねしていろいろ伺いました。

会員1号の鈴木さんは、こんな方でした。

1) お生まれは大正6年10月2日で喜寿。とても喜寿とは思えない若さ。当時の世相は第一次世界大戦が終結した直後で、不景気のどん底。あまり良い時代の生まれではなかったようです。

2) 昭和12年4月、20歳青春の真盛り。当時は徴兵制度により20歳で徴兵され、近衛師団に入隊2年間の兵役を経て、昭和14年3月除隊。同年5月今度は第一次召集で南支那派遣軍に入隊、南支那地区戦線に従軍、昭和16年6月、約2年余で召集解除となり除隊、帰国する。

そして、第二次世界大戦が終結を迎える前年の昭和19年3月、又再度の召集により、今度は北支那派遣軍に入隊、昭和20年8月15日の終戦を北京で迎える。

同年11月29日、天津から引き揚げ船乗船、佐世保港に入港、母國の地を踏む。佐世保港は全くの壊滅状態、行き交う人々も、家なし・職なし・すべて無しの、今では想像もつかない悲惨な状態。引き揚げ船の中で支給されたわずかな被服や食糧をさまよい歩く人々に全部与えてしまったとのこと。鈴

木さんの青春は、すべて戦争の中であったと言っておられました。

3) 戦後は、長く就職難でした。昭和23年によくやく東京電力に就職することができ、昭和28年まで5年間、飯能営業所に勤務しました。

当時は労働組合のストライキにより、電気のすべてが止まる「停電スト」というのがあった頃で、今では想像もつかない時代だったそうです。同年、今度は松屋百貨店に入社。外商部に所属し、昭和50年10月定年で同社を退職しました。松屋時代は日本の経済も徐々に回復し、復興から高度経済成長への充実した時期であったとのことでした。

4) 松屋を定年退職して2年余、昭和52年12月、妻に突然先立たれ、茫然とし失意の時を過ごして約8ヶ月。昭和53年7月、設立準備中の所沢高齢者事業団が、松井地区で設立説明会を開き、同時に入会希望者の入会手続きをとっておりました。そこで直ちに入会の申込みをしたので、それが会員1号となった原因でしょう……、と言って居られました。

そして同53年10月20日に「所沢市高齢者事業団」として正式に設立発足となり、同11月の始め、事業団の現在の山川次長から、所沢聖地靈園の安西石材店から現地案内係員を募集したいとの申出があるが、応募してみないか、との連絡があったので翌日石材店に連絡、面接の上、11月14日より就業することとなり現在に至っているとのことでした。

喜寿を迎えたなどとはとても思えない若さと、行動力。それもその筈、未だ病氣にかかったり、病氣で入院したことは一度もないとの由でした。早寝、早起き、くよくよしないが健康保持の秘訣。そのため趣味の第一はゴルフで、月2回は最低、次は旅行で時間さえとれれば何時でも出掛けられる由。会員1号さんは、羨ましい程健康で明るく、全く年齢を感じさせないお元気な方でした。今後共益々のご健勝をお祈りします。

### 長い間ご苦労様でした

#### 丹沢庶務係長さんご退職

陰に陽に、長く会員皆様の良き相談相手として親しまれ、慕われて参りました丹沢係長さんが去る3月末日をもちまして定年退職されました。

丹沢係長さんは文字通り、当シルバー人材センターの生き字引的存在で、昭和53年埼玉県のトップを切り高齢者事業団として発足した当初から、当時事務局長を含め3名の事務局職員の中の1人として入職され、爾来16年間余ひたすらセンターと共に歩まれ、今日の姿を見るに至る発展に寄与されました。その間の図り知れない程のご功績とご苦労に対しまして、心より感謝と御礼を申し上げたいと思います。今後共、益々のご健勝とご多幸をご祈念申し上げる次第です。

### 新入職員紹介

#### よろしくお願ひします……♪

営業係 山崎 かおり



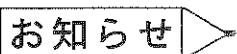
3ヶ月程の試雇期間を経まして、本年4月1日付で、当シルバー人材センターに採用いただきました山崎かおりでございます。よろしくお願ひいたします。

採用され仕事や雰囲気に慣れるまで、私なりに苦労しました。

仕事にも雰囲気にも多少慣れた今では、仕事と共に会員の皆さん一人一人と心が通じ合い、接することができるよう心がけ努力しております。

## ◎皆さんの努力結果

月	会員数	受託件数	就業人員		契約金額			
			実人員	延人員	配分金	事務費	その他	計
1	813	105	338	4,630	17,447,479	1,232,473	429,873	19,109,825
2	818	143	345	4,957	19,174,607	1,484,545	611,480	21,270,632
3	821	132	358	5,191	20,452,530	1,629,996	736,130	22,818,656
合計		380		14,778	57,074,616	4,347,014	1,777,483	632,199,113



### = 会員、親睦旅行 =

#### ゆびそ温泉1泊2日の旅！

恒例の会員親睦旅行の実施が、下記のとおり決定致しました。ご希望の方はお早目に申込み下さい。

##### 記

1. 実施月日 平成7年9月28日（木）～29日（金） 1泊2日
2. 行先 群馬県上信越高原“ゆびそ温泉”（ホテル湯の陣宿泊）
3. 集合及び出発 旧市役所庁舎前午前8時30分集合、9時出発
4. 会費 18,000円（6、7、8の各月、末日までに各6,000円の3回分割払込み）
5. 申込締切り 8月20日、ただし先着90名で締切らせて頂きます。

#### 健康体操（フォークダンス）へのお誘い

会員皆さんの親睦と健康増進を図るために、婦人部主催による高齢者向きフォークダンス講習会を下記により開催いたします。男女を問わず、多数会員皆さんのご参加をお待ちいたします。

##### 記

1. 日時 平成7年6月28日（水）午後1時30分より
2. 場所 旧市役所庁舎地下（畳の部屋）
3. 内容 易しいフォークダンス（無料）

#### シルバー会員加入方法の変更について

昨年度までは、入会は随時受付、その後新入会員説明会を開催しておりましたが、平成7年度5月より毎月入会説明会を行い、シルバー人材センター事業の理念主旨をご理解の上、入会手続きをしていただくシステムに変更することになりました。

なお、当日は印鑑、写真（2枚）、年会費を持参して下さい。

#### あとがき

平成7年度定期総会も好天に恵まれ、多数会員の出席並びに所沢市長をはじめ多数来賓の方々の臨席を得て、盛況裡に終了、新しい年度へのスタートが切られました。

世情は明るいニュースに乏しく厳しい状況にありますが、当センターではシルバーパワーを発揮し、就業率の向上、福祉、家事援助サービス事業の具体化など明るい話題の実現に挑戦いたしましょう。

間もなく梅雨期。そして酷暑の夏を迎えることとなります。体調の維持が困難な時期です。無理せぬご自愛下さいまして、益々のご健勝を祈ります。

次号シルバーだよりは8月15日発行の予定です。隨筆、紀行、詩歌、俳句、意見何でも結構です。7月15日が締切りです。多数会員皆様のご寄稿をお待ちします。